

漁網製造で培った技術を礎に、先端技術 繊維製品の研究開発型メーカーを目指す

創業以来70年にわたり漁網生産を続け、ラッセル漁網については日本のトップシェアを誇る。また、漁網の製造により培われた知識・技術を礎に陸上用のネットの開発を行い、寝装具、家電用品、スポーツ関連、土木資材、自動車関連等と多岐に渡る製品を製造している。更に、FRP（繊維強化プラスチック）製品及び基材、自動車用カーマット及び内装品等を開発・製造等、新分野への展開も図っており、大学との共同研究を進める等、先端技術繊維製品の研究開発型メーカーを目指している。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 愛知県豊橋市中原町岩西5-1 | ● 設立 | 1947年 |
| ● 電話/FAX | 0532-41-1211/0532-41-5078 | ● 資本金 | 9,500万円 |
| ● URL | http://www.fukui-fibertech.co.jp/index.html | ● 従業員数 | 90人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 福井 英輔 | | |



1947年創業時からの「漁網」輸出と新ビジネスの海外展開

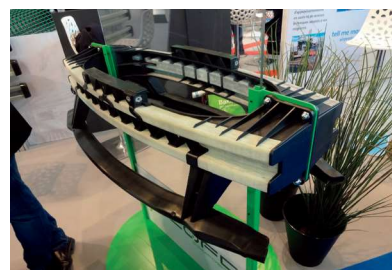
祖業である漁網は30か国以上の輸出実績を持ち、1988年から22年間マレーシアにて漁網工場を経営。新規事業である複合材部門では、米国炭素繊維メーカーの依頼による洋上風車翼材料（炭素繊維引抜成形製品）をブラジル、インド、中国へ輸出し、直近3年間の売上は20%以上増加しており今後更に増える見込みである。同製品のインド等、の現地工場での生産も検討している。また、革新的熱可塑性複合材料の製造技術開発では、技術協力企業であるフランス企業との合併工場経営も計画している。



不燃性地下鉄第三軌条カバー

30年前に地元の大学と共同で複合材料ビジネスをスタート

静岡大学工学部と「熱可塑性複合材料」の共同開発を進めており、同大学の学生の入社につながっている。また、複合材料ビジネスをスタートさせた豊橋技術科学大学とも研究開発を継続し、地場ゼネコンと3者で建築構造材料の開発を開始している。更に、地元の小規模鉄工会社と設備関連での共同開発により機械・装置の発注を増加させており、近隣（静岡県磐田市）の小規模FRP加工会社とのインフラ関連部材（高速道路用ケールラック）においても、共同開発を通じて相当数の発注を図っている。



CFRPフロントバンパービーム

他社が使用していない材料を用いて付加価値の向上を図る

ガラス繊維を使用した引抜成形品が主流の中で、高強度・高剛性、軽量化を目的に炭素繊維を使用し量産化に結びつけた。更に、ラージトウと呼ばれる低価格な炭素繊維を使いこなす技術確立し、マーケットの拡充を図っている。また、鉄道車両用不燃材の規格を得る等、素材から付加価値向上に資している。祖業である編網においても、これまで漁網で培ってきたシングルラッセル技術のみならず、ダブルラッセルの技術を高めて適用範囲を拡大している。



FRP栈橋（軽量、耐腐食）